

第5章 文化財の一体的・総合的な保存と活用

1. 文化財の保存・活用の考え方

本章では、前章までで整理した考え方に従い、文化財の保存・活用の方策を整理します。

文化財一つ一つを個別に守るだけでなく、関連する文化財や周辺環境等を含めて文化財群や集積するところは地区として捉え、これらを一体的に守り、活かしていくことで、若狭町の特徴を形成している歴史文化を守り、後世に伝えていくことが可能となります。

本計画では、歴史文化の特徴に基づいて関連文化財群としてテーマを設定し、歴史文化のストーリーを作成します。ストーリーに沿って文化財が集中し一体的な空間創出を図る区域を文化財保存活用区域として設定して、具体的な取組（措置）を展開していきます。あわせて、すべての関連文化財群に共通する総合的な取組（措置）、防災・防犯及び災害時の対応についても取り組むことで、一体的・総合的な保存・活用に取り組めます。

①関連文化財群の設定

町内に存在する多様で膨大な文化財を、歴史文化の特徴に基づくテーマ・ストーリーを設定することでまとまりをもって扱い、わかりやすく整理します。関連文化財群ごとに核となる文化財及び関連する文化財をグループ化して、それぞれの価値を明確にします。分布状況を地図上に落とし込むことで、地理的特性をわかりやすく表現します。また、取組の中心となる活動や拠点施設を整理します。

②文化財保存活用区域の設定

文化財が集中して存在し、その周辺環境を含め当該文化財（群）を核として文化的な空間を創出するための計画区域を設定し、地域の特徴を活かした魅力的な空間の創出を図ります。本計画では、関連文化財群ごとに、代表となる文化財が質・量ともに豊富な地域であり、また既に地域に根差している団体や活動があり、取組のさらなる発展を望むことのできる区域を文化財保存活用区域として設定します。

③保存・活用にかかる措置の作成

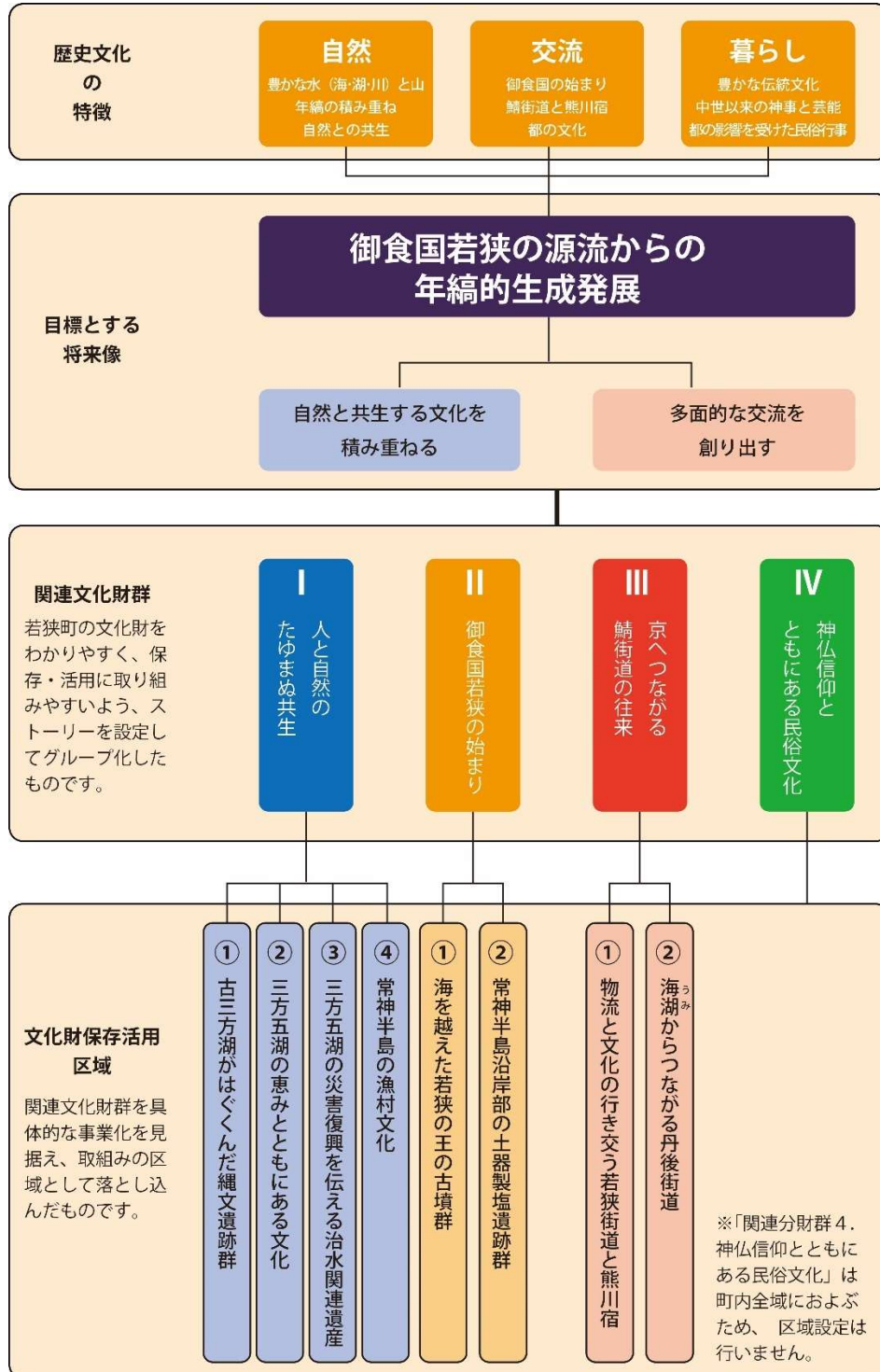
関連文化財群ごとに措置を作成し、関連する措置の関係性を明確にし、相互の連携、相乗効果を図ります。また、文化財保存活用区域の中心となり、特に重要な措置は重点措置とします。関連文化財群及び文化財保存活用区域ごとにそれぞれの措置の内容を詳細に記載します。

財源については、町費・県費・国費（文化財補助金・地域創生推進交付金等）、その他、民間資金等を活用することを予定しています。

2. 関連文化財群及び文化財保存活用区域の設定による保存・活用

(1) 関連文化財群及び文化財保存活用区域の設定

若狭町の歴史文化の特徴を鑑みて、4つの関連文化財群及び8つの文化財保存活用区域を設定します。



若狭町の文化財の保存・活用の骨子

(2) 関連文化財群ごとの保存・活用

I. 人と自然のたゆまぬ共生

I-1. 関連文化財群

①テーマ

人と自然のたゆまぬ共生

～三方五湖をとりまく縄文時代から始まる自然との共生・循環の遺産群～

②ストーリー

縄文時代からの自然との共生・循環の歴史

- ・三方五湖の成り立ちは約20万年前に遡り、現在に至るまで幾多の変遷を経ています。水月湖は7万年にわたる自然環境の変遷を湖底の年縞として今に伝える稀有な湖です。三方五湖周辺で出土する遺物は縄文時代草創期(約13,700年前)に遡り、若狭地方の中でも最も古くから人々が住み着いた地域であるといえます。その出土品は当時の生活をよく示し、縄文時代からの自然との共生・循環の歴史を伝えています。
- ・縄文時代の遺跡は、三方五湖周辺に点在していますが、鱒川、高瀬川の流域に沿って、弥生時代の遺跡と出土品が複合して出土しています。これら流域は、丘陵、河川、湖沼、低湿地などの様々な地形に富み、狩猟採集だけでなく、稲作農耕にも適した生産性の高い環境です。縄文社会から弥生社会への移行は、当町では連続したたゆまぬ流れとして確認できます。

現代につながる暮らしの遺産

- ・三方五湖の豊かな自然環境は現在も美しく保たれ、常神半島を含む広い範囲が国の名勝に指定されています。また湖面は魚類を中心とした生物多様性に富むエリアとして、ラムサール条約登録湿地となっています。湖で受け継がれてきた伝統漁法は、近年日本農業遺産に認定されました。湖の周辺には梅林があり、集落とともに美しい里の景観をつくりだしています。収穫された梅の実は「福井梅」のブランドで出荷され、日本海側の最大の産地となっています。また、三方五湖は湖岸の集落の生業とも深く関係し、湖岸に面した穏やかな集落景観や、交通手段であった舟関係の施設も大きな文化的特徴といえます。
- ・常神半島の集落には、中世から近代までの漁村文書が残されており、魚介類などの美物(うましもの)や、塩などが各地に送り届けられたことがわかっています。現在は漁業のほか、民宿を経営し、観光業を営む人も多く、まさに暮らしのなかで自然との共生・循環を体現している地域といえます。

- ・三方五湖の各所には、江戸時代前期に開削された浦見川に代表される治水関連遺産があり、現在もその多くが機能しています。これらは地震・洪水などによる河川・湖水の氾濫を抑え、三方湖周辺の新田開発や集落の発展にもつながりました。

③文化財の状況

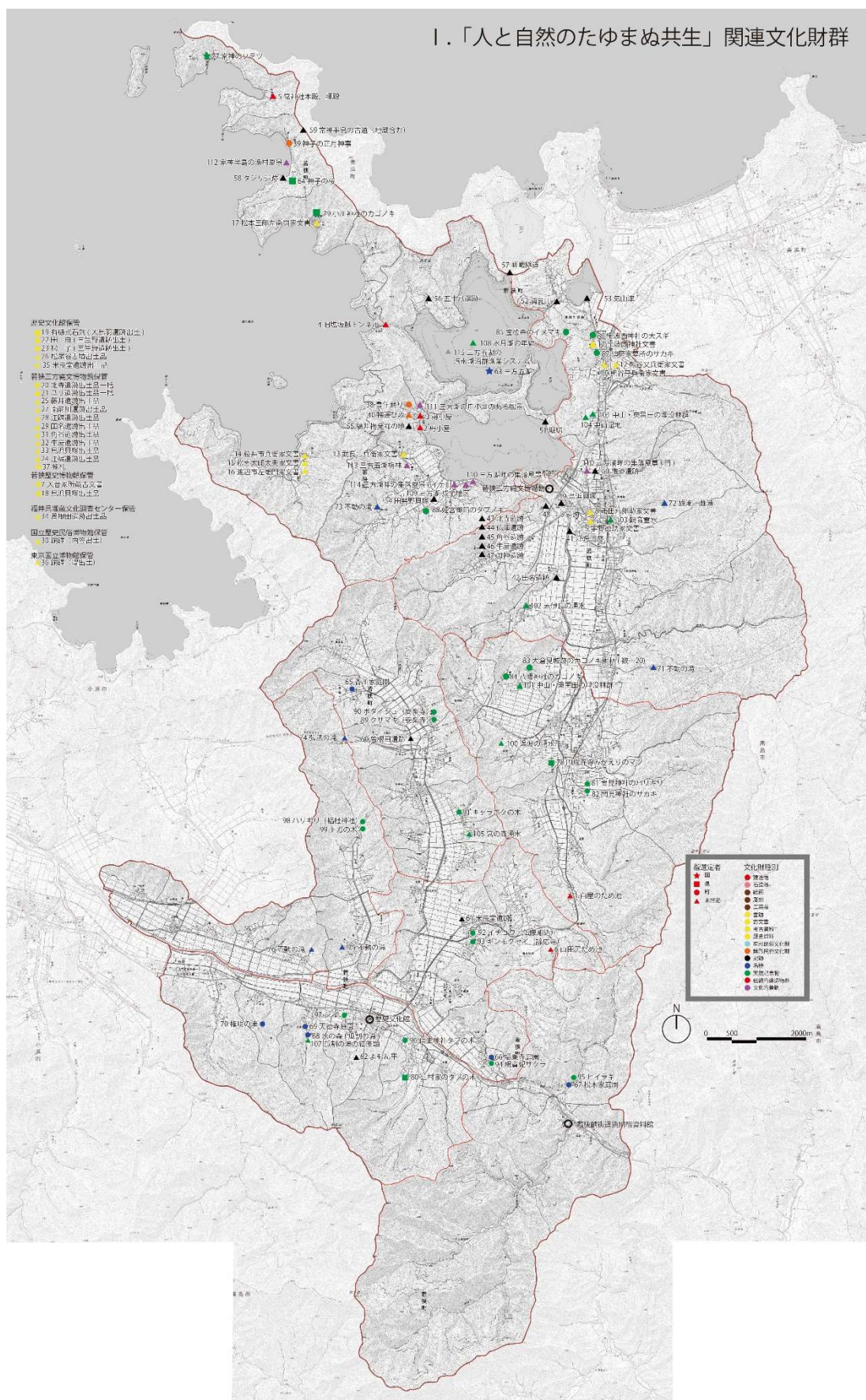
- ・「人と自然のたゆまぬ共生」関連文化財群には、7万年前からの自然環境を記録する水月湖年縞や多様な動植物が生息する三方五湖などの自然遺産、縄文から弥生時代の遺跡、湖と漁村の暮らしを伝える文化財があります。
- ・三方五湖は広い範囲が豊かな自然で構成された名勝に指定されており、常神半島にはソテツなどの植物があります。水月湖年縞は、学術調査・研究が実施され、地質鉱物に分類されますが、指定には至っていません。
- ・縄文から弥生時代の遺跡は、三方五湖周辺と河川流域に分布しており、鳥浜貝塚をはじめとする全国でも貴重な遺跡があります。ここから出土した丸木舟や土器などは、縄文時代の人々の暮らしを今に伝える貴重なものといえます。まだ未調査の遺跡・出土品も多く、今後の調査・研究が必要です。
- ・湖と漁村の暮らしを伝える文化財として、中世以来の歴史を伝える漁村文書などの有形文化財のほか、伝統漁法などの伝統技術、梅林とともにある集落風景や常神半島の漁村風景などの文化的景観、浦見川・嵯峨隧道をはじめとする治水関連遺産などがありますが、特に常神半島については、未だ十分な調査・研究が行われていないものが多くあります。

④文化財の保存・活用を支える施設・団体・行事など

- ・拠点施設として、若狭三方縄文博物館があります。縄文博物館では、主に三方五湖周辺域の遺跡出土品の保管・収蔵及び「自然との共生・循環」をテーマにした展示・体験講座などを行っています。隣接する福井県年縞博物館では、7万年分の水月湖年縞の調査研究・実物展示、福井県里山里海湖研究所では、地質学、水産学、生態学、民俗学などの人と自然に関わる分野の調査・研究・普及活動を行っています。若狭湾沿いに福井県海浜自然センターがあり、魚類の生態展示をはじめとした若狭湾・三方五湖の自然環境に関する展示・体験講座などを行っています。若狭町の西隣の小浜市には福井県立若狭歴史博物館があり、鳥浜貝塚出土品の収蔵・調査研究・保存修理・展示、漁村文書などの資料寄託を担っています。
- ・住民の活動としては、若狭三方縄文博物館友の会 DOKIDOKI 会が博物館のサポートを行っています。また三方五湖の生業に関わる団体として、「鳥浜漁業協同組合」「海山漁業協同組合」があり、民間団体としては、「ハスプロジェクト推進協議会」「若狭路活性化研究所」などが三方五湖の学びや観光に関わる活動をしています。

- ・若狭三方五湖観光協会は、教育旅行の誘致に取り組み、常神半島での漁業体験などを実施しています。
- ・三方五湖自然再生協議会では、漁業者・農業者が協働して田んぼで在来魚類を育成して湖と田んぼのつながりを再生するなど、各種の自然再生と共生の取組がなされ、地域や学校への環境教育につながっています。
- ・毎年、春には「若狭・三方五湖ツーデーマーチ」が開催され、全国から多くのウォーキング愛好者が参加して、三方五湖の美しい景観を楽しんでいます。
- ・近年、三方五湖などの自然の中を走るサイクリングイベントとしての「若狭路センチュリーライド」が開催され、全国から多くの参加者が集まります。同様に、トレイルラン、オープンウォータースイミングなど、周辺の自然を多角的に楽しむイベントが企画・開催されています。

1. 「人と自然のたゆまぬ共生」関連文化財群



- 歴史文化財群
 - 29 有徳北石高(人形置湯跡出土)
 - 27 村田三平神楽(土主)
 - 23 村田三平神楽(土主)
 - 21 松原合治土主
 - 35 米倉遺跡(井)
- 若狭二刀庵文庫群
 - 70 北斎遺跡出土品一掃
 - 71 北斎遺跡出土品二掃
 - 27 若狭川遺跡出土品
 - 19 江戸遺跡出土品
 - 28 江戸遺跡出土品
 - 31 江戸遺跡出土品
 - 32 江戸遺跡出土品
 - 23 江戸遺跡出土品
 - 26 江戸遺跡出土品
 - 37 江戸
- 若狭歴史博物館
 - 7 入母屋瓦葺土蔵
 - 18 江戸時代土蔵
- 若狭県立文庫センター新館
 - 36 江戸時代土蔵
- 若狭歴史資料館
 - 30 江戸時代土蔵
- 若狭歴史資料館
 - 36 江戸時代土蔵

新指定者		文化財種別	
●	国	●	歴史跡
●	県	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡
●	市	●	史跡

I 「人と自然のたゆまぬ共生」 関連文化財群にかかる構成文化財

No	名称	文化財種別	指定選定者	日本遺産	管理者	地区	集落	時代
1	白屋のため池	建造物				三十三	白屋	
2	舟小屋	建造物			個人	西田	伊良積	
3	舟小屋	建造物			個人	西田	海山(北庄)	
4	旧塩坂越トンネル	建造物			若狭町	西田	塩坂越	大正
5	常神社本殿、拝殿	建造物			常神社	西田	常神	
6	山田尻ため池	建造物				瓜生	安賀里	
7	大官家文書	古文書	国		個人	西田	神子	鎌倉～明治初期
8	千田九郎助家文書	古文書			個人	三方	鳥浜	鎌倉～明治初期
9	宇野徳助家文書	古文書			個人	三方	鳥浜	江戸～明治
10	熊谷平兵衛家文書	古文書			個人	三方	氣山	室町～明治
11	宇波西神社文書	古文書			宇波西神社	三方	氣山	室町～明治
12	熊谷又兵衛家文書	古文書			個人	三方	氣山	江戸
13	武長宗兵衛家文書	古文書			個人	西田	世久津	安土桃山～昭和
14	桜井市兵衛家文書	古文書			個人	西田	世久見	安土桃山
15	松宮太郎太夫家文書	古文書			個人	西田	世久見	安土桃山～明治
16	渡辺市左衛門家文書	古文書			個人	西田	世久見	平安～昭和
17	松本三郎左衛門家文書	古文書			個人	西田	小川	江戸～昭和
18	鳥浜貝塚出土品	考古資料	国		福井県	三方	鳥浜	縄文
19	有樋式石剣(大鳥羽遺跡出土)	考古資料	福井県		若狭町	鳥羽	大鳥羽	弥生中期
20	北寺遺跡出土品一括	考古資料	若狭町		若狭町	三方	向笠	縄文
21	ユリ遺跡出土品一括	考古資料	若狭町		若狭町	三方	鳥浜	縄文時代
22	田舟(三生野遺跡出土)	考古資料	若狭町		若狭町	鳥羽	三生野	弥生後期
23	梯子(三生野遺跡出土)	考古資料	若狭町		若狭町	鳥羽	三生野	弥生後期
24	江端遺跡出土品	考古資料			若狭町	三十三	井崎・東黒田	弥生
25	藤井遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	藤井	縄文～弥生
26	松尾谷古墳出土品	考古資料			若狭町	三方	藤井	弥生～古墳前期
27	南前川遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	南前川	弥生
28	江跨遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	北前川・鳥浜	縄文～弥生
29	田名遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	田名	縄文～平安
30	銅鐸(向笠出土)	考古資料			国立歴史民俗博物館	三方	向笠	弥生後期
31	角谷遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	向笠	弥生中期～後期
32	牛屋遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	向笠	縄文～弥生中期
33	鳥浜貝塚出土品	考古資料			若狭町	三方	鳥浜	縄文
34	曾根田遺跡出土品	考古資料			福井県	鳥羽	上黒田	縄文～中世
35	米長堂遺跡出土品	考古資料			若狭町	瓜生	下夕中	弥生後期
36	銅鐸(堤出土)	考古資料			東京国立博物館	野木	堤	弥生中期
37	棟札	歴史資料			常神社	西田	常神	室町
38	豊年踊り	無形民俗文化財	若狭町		伊良積豊年踊り保存会	西田	伊良積	
39	神子の正月神事	無形民俗文化財	若狭町		神子区	西田	神子	
40	梅運び歌	無形民俗文化財			伊良積区	西田	伊良積	
41	江跨遺跡	史跡			個人	三方	北前川	縄文～弥生
42	田名遺跡	史跡			個人	三方	田名	縄文～平安
43	北寺遺跡	史跡			個人	三方	向笠	縄文
44	仏浦遺跡	史跡			個人	三方	向笠	縄文～弥生
45	角谷遺跡	史跡			個人	三方	向笠	弥生
46	牛屋遺跡	史跡			個人	三方	向笠	縄文～弥生
47	風神遺跡	史跡			個人	三方	向笠	弥生
48	ユリ遺跡	史跡			個人	三方	鳥浜	縄文～古墳
49	鳥浜貝塚	史跡				三方	鳥浜	縄文
50	市港遺跡	史跡			個人	三方	三方	縄文～平安
51	堀切	史跡			福井県	三方	生倉・氣山(切迫)	江戸
52	浦見川	史跡			福井県	三方	氣山(芋)	江戸
53	氣山津	史跡			個人	三方	氣山	平安
54	田井野貝塚	史跡			個人	西田	田井野	縄文早前期
55	福井梅発祥の地	史跡			伊良積区	西田	伊良積	江戸

No	名称	文化財種別	指定選定者	日本遺産	管理者	地区	集落	時代
56	五十八遺跡	遺跡			個人	西田	海山	縄文中期
57	嵯峨隧道	遺跡			福井県	西田	海山	江戸
58	タジリ遺跡	遺跡			個人	西田	神子	縄文中期
59	常神半島の古道(地藏含む)	遺跡			常神・神子・小川区等	西田	常神・神子・小川等	江戸
60	曾根田遺跡	遺跡			個人	鳥羽	上黒田	縄文～中世
61	米長堂遺跡	遺跡			個人	瓜生	下々中	弥生後期
62	よもん平	遺跡			個人	三宅	井ノ口	
63	三方五湖	名勝地	国	○	若狭町・美浜町	三方	鳥浜等	
64	神子の桜	名勝地	福井県		若狭町	西田	神子	江戸
65	香川家庭園	名勝地	若狭町		個人	鳥羽	麻生野	
66	福乗寺庭園	名勝地	若狭町		福乗寺	瓜生	関	
67	松木家庭園	名勝地	若狭町		個人	熊川	新道	
68	水の森(瓜割の滝)	名勝地	若狭町	○	天徳寺区	三宅	天徳寺	
69	天徳寺庭園	名勝地	若狭町		天徳寺(寺)	三宅	天徳寺	
70	権現の滝	名勝地	若狭町		個人	三宅	神谷	
71	不動の滝	名勝地			個人	三方	相田	
72	雄滝 雌滝	名勝地			個人	三方	三方	
73	不動の滝	名勝地			個人	西田	梅ヶ原	
74	弘法の滝	名勝地			個人	鳥羽	上黒田	
75	不動の滝	名勝地			個人	野木	堤	
76	不動の滝	名勝地			個人	野木	武生	
77	常神のソテツ	植物	国		若狭町	西田	常神	
78	円成寺のみかえりのマツ	植物	福井県		円成寺	三十三	岩屋	
79	小川神社のカゴノキ	植物	福井県		小川区	西田	小川	
80	上村家のタブの木	植物	福井県		個人	三宅	三宅	
81	間見神社のハリギリ	植物	若狭町		間見神社	三十三	成願寺	
82	間見神社のサカキ	植物	若狭町		間見神社	三十三	成願寺	
83	大倉見城跡のカゴノキ樹林(数…20)	植物	若狭町		東黒田区	三十三	東黒田	
84	八幡神社のカゴノキ	植物	若狭町		八幡神社	三十三	東黒田	
85	宝徳寺のイヌマキ	植物	若狭町		気山区(切追)	三方	気山(切追)	
86	宇波西神社の大スギ	植物	若狭町		宇波西神社	三方	気山(寺谷)	
87	須磨家墓所のサカキ	植物	若狭町		個人	三方	気山(寺谷)	
88	姫宮御前のタブノキ	植物	若狭町		姫宮御前講	西田	田井野	
89	クサマキ(安楽寺)	植物	若狭町		安楽寺	鳥羽	無悪	
90	ボダイジュ(安楽寺)	植物	若狭町		安楽寺	鳥羽	無悪	
91	キャラボクの木	植物	若狭町		個人	鳥羽	小原	
92	イチョウ(仏像彫込)	植物	若狭町		諦応寺	瓜生	安賀里	
93	ギンモクセイ(諦応寺)	植物	若狭町		諦応寺	瓜生	安賀里	
94	楊貴妃サクラ	植物	若狭町		福乗寺	瓜生	関	
95	ヒイラギ	植物	若狭町		個人	熊川	新道	
96	信主神社タブの木	植物	若狭町		信主神社	三宅	三宅	
97	シイ	植物	若狭町		個人	三宅	井ノ口	
98	ハリギリ(楯杜神社)	植物	若狭町		楯杜神社	野木	杉山	
99	トガの木	植物	若狭町		楯杜神社	野木	杉山	
100	湯波の湧水	地質				三十三	岩屋	
101	中山・東黒田の埋没林群	地質			個人	三十三・三方	東黒田・気山(中山)	縄文～古墳
102	志伊良の湧水	地質				三方	佐古	
103	観音霊水	地質			個人	三方	三方	
104	中山湿地	地質			個人	三方	気山	
105	宮の森湧水	地質				鳥羽	南	
106	すぎなさん	地質			個人	三宅	井ノ口	
107	瓜割の滝の紅藻類	地質				三宅	天徳寺	
108	水月湖の年縞	地質			福井県	西田	海山等	
109	三方湖 成出地区	文化的景観			成出区	西田	成出	現代
110	三方湖畔の集落風景(門)	文化的景観			個人	三方・西田	成出・生倉等	
111	三方湖の舟小屋のある風景	文化的景観			若狭町/個人	西田	伊良積 北庄	現代
112	常神半島の漁村風景	文化的景観			常神・神子・小川区等	西田	常神・神子・小川等	現代

No	名称	文化財種別	指定選定者	日本遺産	管理者	地区	集落	時代
113	三方五湖梅林	文化的景観			個人	西田	成出等	
114	常神半島の漁村風景(イケ)	文化的景観			個人	西田	神子・小川	
115	三方五湖の汽水湖沼群漁業システム	複合			福井県・若狭町・美浜町・漁協	町内	鳥浜等	

I-2. 文化財保存活用区域

①区域の概要

- ・「人と自然のたゆまぬ共生」関連文化財群は、若狭町全域に分布しますが、特に三方地域の三方湖・水月湖・菅湖及びその流入河川・常神半島周辺に集中しています。
- ・これらの集中区域では、三方五湖を中心として海・湖・川・里地里山が密接に重なり合い、美しい景観をつくり出しており、これを求めて多くの来訪者が訪れることが大きな特徴です。
- ・保存活用区域として設定したのは、「古三方湖がはぐくんだ縄文遺跡群」、「三方五湖の恵みとともにある文化」、「三方五湖の災害復興を伝える治水関連遺産」、「常神半島の漁村文化」の4つの保存活用区域です。

②各保存活用区域について

●「古三方湖がはぐくんだ縄文遺跡群」保存活用区域

- ・若狭三方縄文博物館と鳥浜貝塚を中心としたエリアです。縄文時代、三方湖の上流には現在は埋没した「古三方湖」と呼ばれる湖沼があり、これを取り囲むように多くの縄文時代の遺跡があります。
- ・「人と自然のたゆまぬ共生」を実践した縄文人に学び、わたしたちの生活に取り入れる学びの場として保存・活用を促進する地域とします。
- ・鳥浜貝塚をはじめとする縄文遺跡群のほとんどは、水田下などの低湿地に埋没しており、現在は直接目視できませんが、大規模な開発行為が少なく多くは保存されています。それらの遺跡出土品の多くが、若狭三方縄文博物館及び福井県立若狭歴史博物館、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターで保存・管理され、一部が公開されています。
- ・若狭三方縄文博物館（鳥浜）が活用拠点施設です。
- ・鳥浜貝塚・ユリ遺跡を含む縄文時代～古代の「低湿地遺跡出土品保存修理事業」や「ユリ遺跡出土品活用事業」が主な事業となります。

区域内の主要文化財

No	名称	種別	指定選定者	管理者	地区	集落	時代
1	鳥浜貝塚出土品	考古資料	国	福井県	三方	鳥浜	縄文
2	鳥浜貝塚出土品	考古資料		若狭町	三方	鳥浜	縄文
3	北寺遺跡出土品一括	考古資料	若狭町	若狭町	三方	向笠	縄文
4	ユリ遺跡出土品一括	考古資料	若狭町	若狭町	三方	鳥浜	縄文
5	藤井遺跡出土品	考古資料		若狭町	三方	藤井	縄文～古墳
6	曾根田遺跡出土品	考古資料		福井県	鳥羽	上黒田	縄文～中世
7	鳥浜貝塚	遺跡		福井県・若狭町	三方	鳥浜	縄文
8	北寺遺跡	遺跡		個人	三方	向笠	縄文～古墳
9	ユリ遺跡	遺跡		個人	三方	鳥浜	縄文～古墳
10	田井野貝塚	遺跡		個人	西田	田井野	縄文

●「三方五湖の恵みとともにある文化」保存活用区域

- ・三方湖・水月湖・菅湖を中心としたエリアです。
- ・三方五湖の中心地域として、文化的景観・伝統産業（漁業・農業）・民俗行事・自然保護系の活発なボランティア活動などから、より住民と一体になった保存・活用を図る地域とします。
- ・湖に関わる文化財は、現在の生活と不可分なものが多く、特に湖での漁業や梅栽培、無形民俗文化財などは人々の暮らしそのものです。名勝三方五湖周辺の自然物や集落の景観は大きく形を変えることなく、継承されています。
- ・レインボーライン、水月湖年縞が展示されている福井県年縞博物館や、湖における人間活動を調査研究している福井県里山里海湖研究所、J A梅の里会館が活用拠点施設です。
- ・湖の伝統漁法を対象に平成31年（2019）に認定された日本農業遺産を対象とした「日本農業遺産推進事業」、「縄文博物館・年縞博物館連携事業」が主な事業となります。

区域内の主要文化財

No	名称	種別	指定選定者	管理者	地区	集落	時代
1	舟小屋	建造物		個人	西田	伊良積	
2	舟小屋	建造物			西田	海山(北庄)	
3	福井梅発祥の地	遺跡					
4	三方五湖	名勝地	国	若狭町・美浜町	三方	鳥浜等	
5	中山・東黒田の埋没林群	植物		個人	三十三・三方	東黒田・気山(中山)	
6	中山湿地	地質		個人	三方	気山	
7	水月湖年縞	地質		福井県	西田	海山等	
8	三方湖の舟小屋のある風景	文化的景観		若狭町/個人	西田	伊良積/北庄	
9	三方五湖梅林	文化的景観		個人	西田	成出等	
10	三方五湖の汽水湖沼群漁業システム	複合		福井県・若狭町・美浜町・漁協	町内	鳥浜等	

●「三方五湖の災害復興を伝える治水関連遺産」保存活用区域

- ・水月湖と久々子湖をつなぐ浦見川、水月湖と日向湖をつなぐ嵯峨隧道、田井島～成出・生倉といった湖岸集落を中心としたエリアです。
- ・治水関連遺産がつけられるきっかけとなった地震や豪雨による水害の歴史から、災害復興や現代の防災について学ぶための保存・活用を図る地域とします。
- ・三方五湖の各湖は江戸時代前期から中期にかけて相次いでつくられた運河や隧道で相互につながり、それらは今なお水路として機能しています。江戸時代前期に新田開発された水田や、集落景観もほぼ残され、過去の漁業や物流を示す古文書等の史料も伝承されています。
- ・観光地としても知られる浦見川や、八十八ヶ仏の並ぶ田井島が活用拠点施設です。
- ・水害を中心とした「災害教育プログラム事業」が主な事業です。

区域内の主要文化財

No	名称	種別	指定選定者	管理者	地区	集落	時代
1	堀切	遺跡		福井県	三方	生倉・気山(切迫)	江戸
2	浦見川	遺跡		福井県	三方	気山(葺)	江戸
3	嵯峨隧道	遺跡		福井県	西田	海山	江戸
4	三方五湖	名勝地	国	若狭町・美浜町	三方	鳥浜等	
5	三方湖 成出地区	文化的景観		成出区	西田	成出	現代
6	三方湖畔の集落風景（門）	文化的景観		個人	三方・西田	伊良積・生倉	

●「常神半島の漁村文化」保存活用区域

- ・常神半島（常神～海山）及び若狭湾岸（世久見・食見）、そこから魚介類を丹後街道まで運ぶ枝道（陸路・海路・湖水路）を含むエリアです。
- ・中世に開発された常神半島の浦の漁村文化と社寺に伝わる文化財を活かし、エリア内の民宿での体験型観光につながる保存・活用を目指した地域とします。
- ・漁村に伝わる有形文化財（古文書・能面など）は、所有者が管理する場合と公的機関に寄託される場合があります。天然記念物（巨木）は集落や所有者が管理し、観光名所ともなっています。現在も生業として漁業・宿泊業が重要な地域であり、漁村風景や食文化が保たれています。
- ・活用拠点施設は常神社、各民宿等宿泊施設やみさき漁村体験施設（神子）です。
- ・今後の調査に基づく「常神半島の歴史と文化発信事業」、宿泊施設等を主体とした「常神半島漁業体験事業」が主な事業です。

区域内の主要文化財

No	名称	種別	指定選定者	管理者	地区	集落	時代
1	常神社本殿、拝殿	建造物		常神社	西田	常神	
2	大音家文書	古文書	国	個人	西田	神子	鎌倉～明治初期
3	棟札	歴史資料		常神社	西田	常神	室町
4	神子の正月神事	無形民俗文化財	若狭町	神子区	西田	神子	
5	常神半島の古道	遺跡		常神・神子・小川区等	西田	常神・神子・小川等	江戸
6	三方五湖	名勝地	国	若狭町・美浜町	三方	鳥浜等	
7	常神のソテツ	植物	国	個人	西田	常神	
8	小川神社のカゴノキ	植物	福井県	小川区	西田	小川	
9	常神半島の漁村風景	文化的景観		常神・神子・小川区等	西田	常神・神子・小川等	現代
10	能面翁	彫刻	若狭町	個人	西田	常神	江戸初期

I-3. 保存・活用にかかる措置

① 保存・活用の方向

- ・地質学年代の世界標準となった水月湖年縞の価値をさらに高めることとなる研究の進展が期待されます。町としても福井県年縞博物館と連携し、イベント等を通じて発信していくことが必要です。居住域と近接した名勝三方五湖の指定から住民はおよそ4世代が交代し、現代の少子化の中で住民の暮らしと調和した景観保全制度の運用について検討していく必要があります。また『クールジャパンアワード2019』に認定されたレインボーライン（有料道路）から見渡す三方五湖の風景を貴重な景観資源として発信し、三方五湖の景観や環境の保全につなげていくことが望まれます。
- ・若狭三方縄文博物館を核として、我が国有数の縄文遺跡である鳥浜貝塚の展示に加え、教育普及活動としての体験講座を充実させ、幅広い世代に対し、縄文文化の発信を行っていくことが重要です。また、未調査の遺跡・出土品についても、この地域の縄文文化のさらなる理解のために調査・研究を進めていくことが必要です。
- ・梅の生産加工、漁撈などの生業に対して文化財として調査・研究を進める必要があります。また重要文化財となった大音家文書をはじめとする漁村史料の調査を進め、中世から続く漁村の歴史を後世に伝えていく必要があります。浦見川などの治水関連遺産についても、『里山里海湖学校教育プログラム集』で取り上げられているように、災害教育の面からの保存・活用の充実が求められます。



三方五湖

②措置の一覧

以下に、文化財保存活用区域ごとに措置を記載します。

● I-①「古三方湖がはぐくんだ縄文遺跡群」文化財保存活用区域の措置

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続 ／ 新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		1-3 年目	4-7 年目	8-10 年目
1	鳥浜貝塚等縄文遺跡出土品調査、整理事業	①知る	三方五湖周辺の鳥浜貝塚等の縄文遺跡出土品のうち、未調査、未整理のものを対象に所蔵者と協力の上で調査、整理を進める。	町費	◎	○			○	継続			
2	低湿地遺跡出土品保存修理事業	②守る	縄文時代から古墳時代にかけての三方五湖周辺の低湿地遺跡出土品のうち、丸木舟等（鳥浜貝塚他出土）の保存修理を行う。	町費	◎				○	新規			
3	縄文遺跡、三方五湖縄文環境探訪事業	③活かす	縄文遺跡と三方五湖の探訪ツアーを実施する。	町費	◎		○	○	○	新規			
4	縄文博物館常設展示充実事業	③活かす	貴重な出土品について展示替え、リニューアルによって充実させていく。	町費	◎	○			○	新規			
5	ユリ遺跡出土品活用事業	③活かす	県所蔵のユリ遺跡出土品（向笠、鳥浜）の移管を受け、展示活用していく。	町費	◎	○			○	新規			
6	縄文博物館「Come on! Jomon!」事業	③活かす	縄文ガールズなど新たな人材によるコンサート等のイベントを行う。	町費	◎		◎	○		継続			
7	縄文博物館企画展実施事業	③活かす	縄文に加えて、歴史や環境など幅広いテーマで企画展を実施する。	町費	◎	○	○		○	継続			
8	縄文博物館設備更新事業	③活かす	縄文博物館のエレベーターや空調設備等、活用に関わる部分の更新を行う。	町費	◎					新規			
9	縄文都市連絡協議会事業	④伝える	全国15市町で構成する縄文都市連絡協議会を活用し、若狭町の縄文文化を全国に発信する。縄文シティサミットを開催する。	町費	◎		○	○	○	継続			
10	縄文博物館友の会 DOKIDOKI 会事業	⑤担う	縄文博物館友の会 DOKIDOKI 会が展示、体験講座、イベント等を実施する。	民間	○		◎	○	○	継続			

● I-②「三方五湖の恵みとともにある文化」文化財保存活用区域の措置

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続／新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		13 年目	17 年目	20 年目
11	三方五湖護岸再生事業	②守る	ヨシ、石積み護岸等の再生を行う。	町費 県費	◎				○	継続			
12	縄文博物館・年縞博物館連携事業	③活かす	年縞博物館と連携し、特別展やイベントを開催する。	町費	◎		○	○	○	継続			
13	日本農業遺産推進事業	③活かす	2019年に認定された日本農業遺産－三方五湖の汽水湖沼群漁業システム－にかかる伝統漁法等の保存・活用に関わる事業を推進する。	町費 県費	◎		○	○		継続			
14	三方五湖サイクリングロード整備事業	③活かす	三方五湖を中心としたサイクリングロードを設定し、ナショナルサイクルロード認定を目指す。	町費 県費	◎			○		新規			
15	レインボーライン整備事業	③活かす	レインボーライン山頂・山麓公園の全体の整備を行う。	町費 県費 国庫	○				◎	新規			
16	舟小屋改修支援事業	③活かす	地元有志が技術を学びながら行う舟小屋の修復作業に支援を行う。	町費 県費 国庫	○				◎	新規			
17	名勝「三方五湖」現状変更手続周知事業	④伝える	名勝の現状変更手続きの周知徹底を図る。	町費	◎					継続			
18	福井梅の歴史発信事業	④伝える	江戸時代後半から始まった梅の栽培が日本海側最大の産地になるまでの歴史を発信していく。	町費	◎		○	○		新規			

● I-③「三方五湖の災害復興を伝える治水関連遺産」文化財保存活用区域の措置

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続／新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		1-3年目	4-7年目	8-10年目
19	災害教育プログラム事業	④伝える	治水関連遺産をもとに災害教育プログラムを実施する。	町費	◎		○		○	継続			
20	三方五湖の地質・地形・災害を学ぶ探訪ツアー	⑦伝える	三方五湖の地質、地形、さらには災害を契機として造られた運河などの歴史遺産を学ぶツアーを実施する。	町費	◎		○		○	新規			

● I-④「常神半島の漁村文化」文化財保存活用区域の措置

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続／新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		1-3年目	4-7年目	8-10年目
21	常神半島の歴史と文化発信事業	④伝える	常神半島の歴史と文化を多様な観光テーマとともに発信していく。	町費	◎		◎	○	○	新規			
22	常神半島漁業体験事業	④伝える	大敷網、干物づくり体験から常神半島の漁業について学ぶ。	民間	○		○	◎		継続			

●上記区域に含まれない措置

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続 ／ 新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		1 3 年 目	4 7 年 目	8 1 0 年 目
23	曾根田遺跡（縄文・弥生時代）出土品活用事業	③活かす	県所蔵の曾根田遺跡（縄文・弥生時代）出土品の移管を受け、展示活用していく。	町費	◎	◎			○	新規			

③重点措置

措置の中から、特に重要なものを重点措置として以下に詳細を記載します。

事業名	鳥浜貝塚等縄文遺跡出土品調査、整理事業		
実施場所	I-①「古三方湖がはぐくんだ縄文遺跡群」保存活用区域	措置の種類	知る
事業内容	三方五湖周辺の鳥浜貝塚等の縄文遺跡出土品のうち、未調査、未整理のものを対象に所蔵者（若狭町・福井県）と協力の上で調査、整理を進めます。調査主体としての行政が協力を求めることにより、大学等の研究機関を対象に、調査・整理・研究・地域への還元への積極的な参画を促していきます。		
実施主体	若狭町／福井県／大学等研究機関	実施時期	令和4年～令和9年
財源	国庫／県費／町費／各団体		
関連事業	低湿地遺跡出土品保存修理事業／縄文遺跡、三方五湖縄文環境探訪事業／ユリ遺跡出土品活用事業／縄文博物館企画展実施事業		

事業名	縄文博物館設備更新事業		
実施場所	I-①「古三方湖がはぐくんだ縄文遺跡」保存活用区域	措置の種類	活かす
事業内容	「縄文遺跡群」保存活用区域の核となる鳥浜貝塚・ユリ遺跡出土品等の文化財の活用拠点が、若狭三方縄文博物館です。縄文博物館のエレベーターや空調整備等、より円滑で継続的な活用に関わる設備の更新を行います。		
実施主体	若狭町	実施時期	令和3年度～9年度
財源	国庫／町費		
関連事業	縄文博物館常設展示充実事業／縄文博物館「Come on!Jomon!」事業／縄文博物館友の会 DOKIDOKI 会事業		

事業名	常神半島の歴史と文化発信事業		
実施場所	I-④「常神半島の漁村文化」保存活用区域	措置の種類	伝える
事業内容	中世に開発された常神半島の浦の漁村文化と社寺に伝わる文化財を活かし、エリア内の民宿等での体験型観光につながる情報発信をします。600年以上続く魚介類利用の歴史を学び、民宿等で大敷網や魚さばき等の体験参加を通じて、子どもたちを中心に地域の魅力を知ってもらい、伝えていくための事業を行います。		
実施主体	若狭町／若狭三方五湖観光協会	実施時期	令和3年度～9年度
財源	県費／町費／各団体		
関連事業	常神半島漁業体験事業		

II. 御食国若狭の始まり

II-1. 関連文化財群

①テーマ

御食国若狭の始まり ～都へ食を納めた若狭の王の遺産群～

②ストーリー

御食国若狭成立への道程

- ・若狭町には、北川流域周辺に大型前方後円墳や円墳が存在しており、日本海側の一大古墳密集地です。これらの古墳は、膳臣一族（皇室や朝廷の御食(みけ)を担当した国造)の墳墓と比定されており、周濠・葺石・埴輪を兼備しています。当時の中心地であった畿内との深い関係がみえてきます。特に脇袋の上ノ塚古墳や西塚古墳の背後には膳部山がそびえており、膳臣と深い関係にあると考えられています。また、倭の対外交渉が活発になる時期の西塚古墳や十善の森古墳等の出土品からは、半島・大陸から日本海を渡ってもたらされた煌びやかな装飾品が発見されています。さらには、三生野遺跡から朝鮮半島に出自をもつ陶質土器が出土しています。そこから、若狭も海を越えた交流が盛んであったことがうかがえます。対外的な膳臣の活躍とともに、古墳時代から若狭が畿内と深い関係のなかで御食国となる基盤がつくられていったと考えられます。
- ・町内の中小規模古墳は、若狭がもつ地勢的な特徴を反映するように朝鮮半島・西日本・東日本の文化的要素を取り入れています。首長墓には、九州や畿内の文化的な要素が取り入れられていますが、中小規模古墳にみられるような東日本的な要素は採用されていません。すなわち、中小規模古墳からは、首長墓を頂点とした若狭における階層性をうかがい知ることができます。
- ・以上のように若狭町の古墳からは、列島内外の交流が盛んに行われていたことを示す考古資料が発見されています。その背景には、若狭が交流の要所地となる地勢的条件が大きく関係しています。つまり、若狭町の古墳文化は、列島内の地域交流を行う「求心力」と海を越えた朝鮮半島との交流を行う「対外力」という2つの言葉で語ることができます。
- ・古墳以外にも御食国の成立を物語るものとして塩があります。日本海に突き出した常神半島沿岸部には7か所の土器製塩遺跡が確認されています。当町の土器製塩は、若狭で最も早い古墳時代に土器による塩の生産を開始した小浜湾沿岸地域から伝わりました若狭の古墳造営は、塩生産とともに幕を明けて、大和政権の関与のもと若狭の王たちは人の生命維持に欠かせない塩の生産の一翼を担いました。そして、奈良時代の製塩土器は大型化し、以前に比べて塩生産が活発化します。塩の需要が高まり御食国として発展したことがうかがえます。

- ・古墳時代を経て律令期（奈良時代）になり、若狭はより明確に海の幸や塩を都に納めていた御食国の役割を担うようになったと推定されています。万葉集の御食国を示唆する記録には志摩・淡路が言及されていますが、若狭が御食国と伝える記録は見当たりません。しかしながら、奈良時代に盛行する土器製塩遺跡群をはじめ、若狭を治めたのが膳臣であること、そして古墳時代の考古資料からとりわけ重要な役割を果たしていたと考えられます。
- ・御食国若狭を物語る骨格的遺産群が、時代を超えて今もなおその事実を語りかけています。

④ 文化財の状況

- ・北川流域には、若狭の広域首長墓である大型前方後円墳や大型円墳が築かれています。それらの古墳は、国指定史跡であるものの、昭和10年（1935）の指定時と現状では墳丘周辺の地形が大きく変化しており、発掘調査により史跡範囲の再確定を行う必要があります。また、史跡の大半が私有地となっており、整備に向けて公有地化を図っていきます。そして、広域首長墓を取り囲むようにして町域に中小規模の古墳が存在しています。中規模古墳に関しては、未調査の古墳が多く、今後の継続した調査が必要です。
- ・平成27・28年（2015・2016）調査では、古墳の様相が不透明な鯖川流域に所在する藤井岡古墳群が発掘調査されました。この調査から、東日本系の壺形埴輪と畿内の埴輪と同等な作りの甲冑形・家形埴輪が発見され、5世紀前葉の古墳であるとわかりました。この時期は、若狭地方最初の広域首長墓である上ノ塚古墳とほぼ同時期であり、両者の連動した関係が推定されます。この新たな展開により鯖川流域も統治上重要視されていたことが明らかとなりました。また、平成29年（2017）調査では、脇袋古墳群を取り囲む膳部山の南尾根先端部に所在する脇袋丸山塚古墳が発掘調査され、約52mの帆立貝式古墳であることが判明しました。畿内の首長墓周辺で採用される墳形が若狭地方にも存在することが明らかとなりました。さらには、北陸地域では出土数が少ない冪形埴輪と未だ例をみない稀有な柵形埴輪や、前方部には朝鮮半島に系譜が辿れる特殊遺構が発見されました。これらの発見は若狭の古墳時代像に広く新たな知見をもたらしました。藤井岡古墳群をはじめ向山1号墳や脇袋丸山塚古墳の遺構や出土品は、多様な文化交流を示すものであり、中小規模古墳も若狭の地勢的背景を象徴する古墳であることが分かってきました。

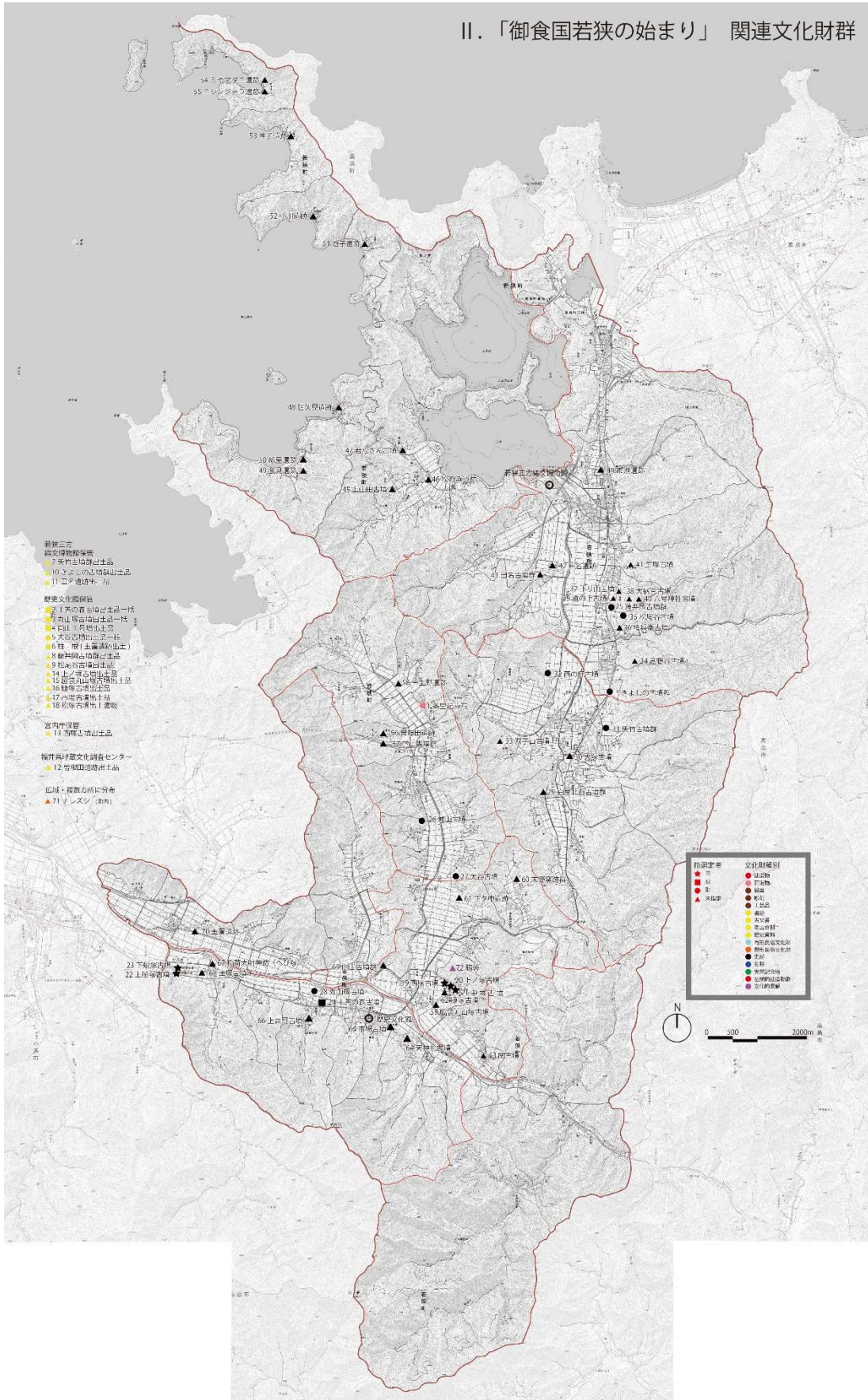
⑤ 文化財の保存・活用を支える施設・団体・行事など

- ・拠点施設として、若狭町歴史文化館が埴輪や出土した副葬品の展示を行っています。
- ・また、若狭町歴史文化館のサポーターが若狭の古墳文化を周知する一翼を担っています。
- ・脇袋古墳群整備委員会があり、古墳の理解を深めるために定期的に研修を行っています。
- ・地域活動では、若狭の王家の谷とも呼称される脇袋区で、8月上旬に古墳の被葬者に畏敬の念を込めた「塚供養」が、11月6日には日本書紀の記述をもとに、膳部山の膳神社において膳神社奉賛会による例祭も執り行われています。
- ・脇袋の住民有志で膳部山への登山道整備を行っています。山頂からは、脇袋古墳群を擁する王家の谷を見下ろせ、小浜湾さらには、若狭の西端に位置する若狭富士と呼ばれる青葉山まで望むことができます。
- ・平成19年（2007）から若狭町の語り部と協働で町内の古墳を巡る「古墳にコープンバスツアー」を開催しています。



脇袋古墳群

II. 「御食国若狭の始まり」 関連文化財群



II 「御食国若狭の始まり」 関連文化財群にかかる構成文化財

No	名称	文化財種別	指定選定者	日本遺産	管理者	地区	集落	時代
1	条里起点石	石造物	若狭町		無悪区	鳥羽	無悪	奈良
2	十善の森古墳出土品一括	考古資料	福井県		若狭町	三宅	天徳寺	古墳後期
3	丸山塚古墳出土品一括	考古資料	福井県		若狭町	三宅	天徳寺	古墳後期
4	向山1号墳出土品	考古資料	福井県		若狭町	瓜生・野木	堤・下吉田	古墳中期
5	大谷古墳出土品一括	考古資料	若狭町		若狭町	瓜生	下夕中・山内	古墳後期
6	柱根(玉置遺跡出土)	考古資料	若狭町		若狭町	野木	玉置	平安
7	矢竹古墳群出土品	考古資料			若狭町	三十三	能登野	古墳後期
8	藤井岡古墳群出土品	考古資料			若狭町	三方	藤井	古墳中期
9	松尾谷古墳出土品	考古資料			若狭町	三方	南前川・藤井	弥生～古墳前期
10	きよしの古墳群出土品	考古資料			若狭町	三方	相田	古墳後期
11	田名遺跡出土品	考古資料			若狭町	三方	田名	縄文～平安
12	曾根田遺跡出土品	考古資料			福井県	鳥羽	上黒田	縄文～中世
13	西塚古墳出土品	考古資料			宮内庁	瓜生	脇袋	古墳中期
14	上ノ塚古墳出土品	考古資料			若狭町	瓜生	脇袋	古墳中期
15	脇袋丸山塚古墳出土品	考古資料			若狭町	瓜生	脇袋	古墳中期
16	糠塚古墳出土品	考古資料			若狭町	瓜生	脇袋	古墳中期
17	市場古墳出土品	考古資料			若狭町	三宅	市場	古墳後期
18	松塚古墳出土遺物	考古資料			若狭町	三宅	日笠	古墳後期
19	西塚古墳	遺跡	国	○	若狭町	瓜生	脇袋	古墳中期
20	上ノ塚古墳	遺跡	国	○	若狭町	瓜生	脇袋	古墳中期
21	中塚古墳	遺跡	国	○	若狭町	瓜生	脇袋	古墳中期
22	上船塚古墳	遺跡	国	○	若狭町	三宅	日笠	古墳後期
23	下船塚古墳	遺跡	国	○	若狭町	三宅	日笠	古墳後期
24	十善の森古墳	遺跡	福井県	○	天徳寺区	三宅	天徳寺	古墳後期
25	藤井岡古墳	遺跡	若狭町		個人	三方	藤井	古墳中期
26	城山古墳	遺跡	若狭町		大鳥羽区	鳥羽	大鳥羽	古墳中期
27	大谷古墳	遺跡	若狭町		個人	瓜生	下夕中・山内	古墳後期
28	丸山塚古墳	遺跡	若狭町		天徳寺区	三宅	天徳寺	古墳後期
29	白屋北山古墳群	遺跡			個人	三十三	白屋	古墳前期
30	大塚古墳	遺跡			個人	三十三	上野	古墳後期～奈良
31	矢竹古墳群	遺跡			個人	三十三	能登野	古墳後期
32	西の坪古墳	遺跡			個人	三十三	井崎	古墳中期
33	双子山古墳	遺跡			個人	三十三	岩屋	古墳
34	高野谷古墳	遺跡			個人	三方	相田	古墳
35	松尾谷古墳	遺跡			若狭町	三方	南前川・藤井	古墳前期
36	権兵衛古墳	遺跡			個人	三方	藤井	古墳
37	下り山古墳	遺跡			個人	三方	南前川	古墳後期
38	大納言古墳	遺跡			個人	三方	南前川	古墳後期
39	道の上古墳	遺跡			個人	三方	南前川	古墳後期
40	六号神社古墳群	遺跡			個人	三方	南前川	古墳
41	牛塚古墳	遺跡			個人	三方	南前川	古墳
42	田名遺跡	遺跡			個人	三方	田名	縄文～平安
43	田名古墳群	遺跡			個人	三方	田名	古墳
44	市港遺跡	遺跡			個人	三方	三方	縄文～平安
45	上山田古墳	遺跡			個人	西田	田立	古墳
46	松の浜遺跡	遺跡			個人	西田	別庄	古墳～奈良
47	若松さん古墳	遺跡			個人	西田	世久津	古墳
48	世久見遺跡	遺跡			個人	西田	世久見	奈良
49	食見遺跡	遺跡			個人	西田	食見	古墳～平安
50	紙屋古墳	遺跡			個人	西田	食見	古墳後期
51	遊子遺跡	遺跡			個人	西田	遊子	奈良
52	小川遺跡	遺跡			個人	西田	小川	古墳
53	神子遺跡	遺跡			個人	西田	神子	奈良～平安
54	ミヤマダニ遺跡	遺跡			個人	西田	常神	奈良
55	ニシンジャラ遺跡	遺跡			個人	西田	常神	奈良

No	名称	文化財種別	指定選定者	日本遺産	管理者	地区	集落	時代
56	曾根田遺跡	遺跡			個人	鳥羽	上黒田	縄文～中世
57	下山古墳群	遺跡			個人	鳥羽	上黒田	古墳後期
58	三生野遺跡	遺跡			個人	鳥羽	三生野	弥生～古墳
59	脇袋丸山塚古墳	遺跡			個人	瓜生	脇袋	古墳中期
60	末野窯跡群	遺跡			個人	瓜生	末野	奈良～平安
61	下夕中遺跡	遺跡			個人	瓜生	下夕中	
62	糠塚古墳	遺跡			個人	瓜生	脇袋	古墳中期
63	関古墳	遺跡			個人	瓜生	関	古墳後期
64	天神前古墳	遺跡			個人	三宅	三宅	古墳後期
65	市場古墳	遺跡			個人	三宅	市場	古墳後期
66	上高野古墳	遺跡			個人	三宅	天徳寺	古墳後期
67	稲荷大明神跡(へび塚)	遺跡			個人	三宅	日笠	古墳
68	玉塚(古墳)	遺跡			個人	三宅	日笠	古墳
69	向山古墳	遺跡			個人	瓜生・野木	堤・下吉田	古墳中期
70	玉置遺跡	遺跡			個人	野木	玉置	奈良～平安
71	ナレズシ	無形民俗文化財				町内		奈良
72	脇袋	文化的景観			脇袋区	瓜生	脇袋	

II-2. 文化財保存活用区域

①区域の概要

- ・北川流域の平野部には、首長墓である大型前方後円墳や大型円墳が築かれており、それらを取り囲むように北川流域及び鯖川流域に中小規模古墳が存在しています。また、日本海沿岸地域には大和政権に塩を供給した土器製塩遺跡が点在しています。
- ・これらの古墳の規模・立地や考古資料から、古墳時代における若狭地域の政治的階層構造や御食国若狭の成り立ちを時間的に追える点が大きな特徴です。
- ・若狭の王が眠る首長墓とその活動を支えた中小規模古墳が分布する北川流域及び鯖川流域エリアを「海を越えた若狭の王の古墳群」保存活用区域、土器製塩遺跡が集中する常神半島沿岸部エリアを「常神半島沿岸部の土器製塩遺跡群」保存活用区域として設定します。

②各保存活用区域について

●「海を越えた若狭の王の古墳群」保存活用区域

- ・北川流域及び鯖川流域を中心としたエリアです。
- ・北川流域には、若狭を治めた膳臣一族の墳墓に比定される大型前方後円墳や大型円墳といった首長墓が築かれています。そして、その周辺には若狭の王の活躍を支えた中小規模古墳が点在しています。首長墓と中小規模古墳では、規模・立地・出土品の構成要素が異なり、その差異から階層性を見出すことができます。特に出土品に関して、首長墓からは大陸・半島製の装飾品や馬具が発見されています。また、中小規模古墳では、首長墓には見られない東日本の文化的要素が取り入れられていますが、向山1号墳からは大陸・半島製の装飾品が発見されています。これらの古墳は、若狭が有する地勢的条件から生まれた求心力と対外力を今に伝えています。
- ・若狭の王の活躍や御食国若狭が誕生するまでの歴史の過程を学べる区域とします。
- ・若狭町歴史文化館、若狭三方縄文博物館が活用拠点施設です。
- ・「国史跡西塚古墳復元整備事業」「国史跡西塚古墳保存活用計画策定事業」「御食国若狭『膳臣の里』基本構想策定事業」「中小規模古墳発掘調査事業」が主な事業です。

区域内の主要文化財

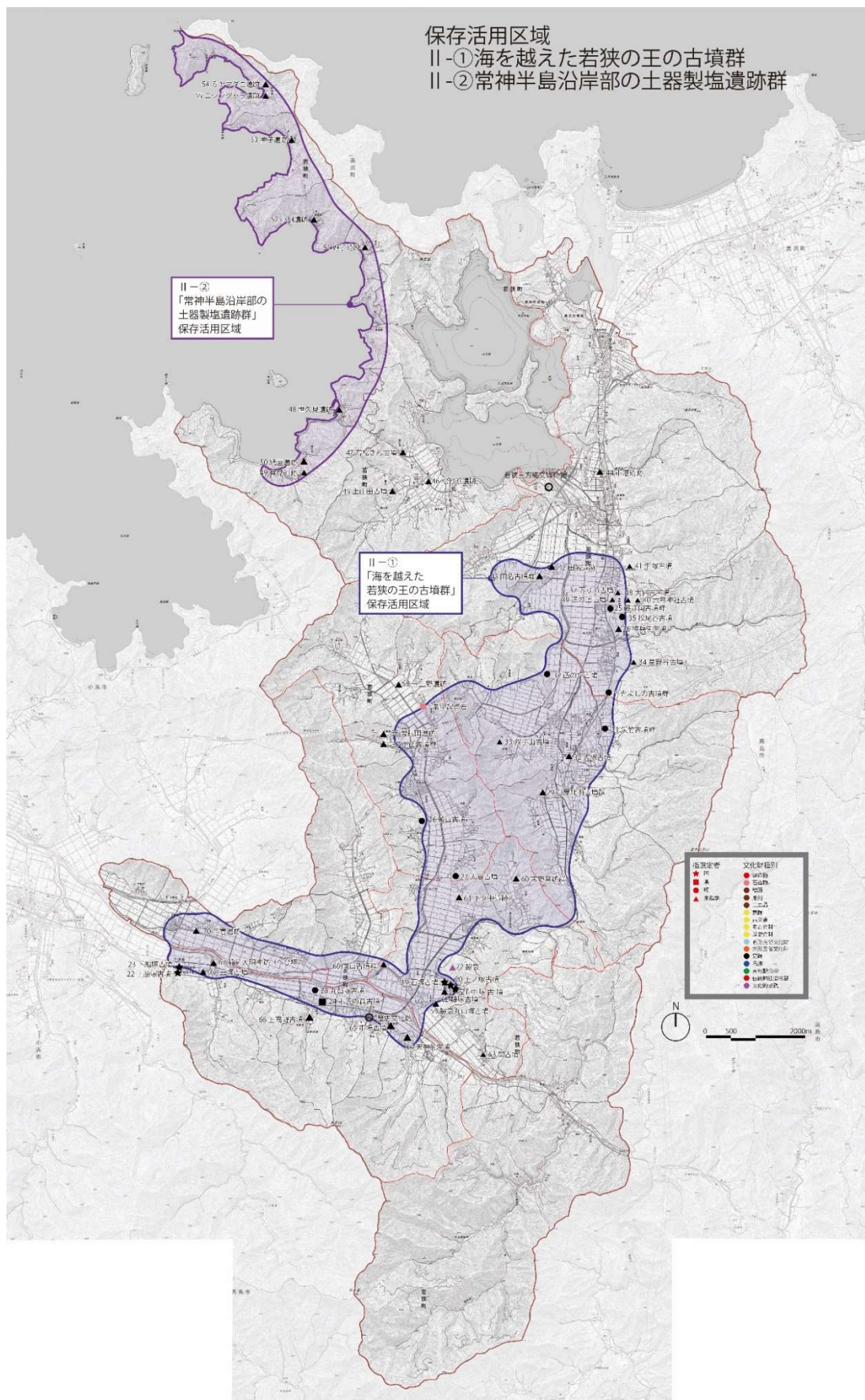
No	名称	種別	指定選定者	管理者	地区	集落	時代
1	西塚古墳	遺跡	国	脇袋区	瓜生	脇袋	古墳中期
2	上ノ塚古墳	遺跡	国	脇袋区	瓜生	脇袋	古墳中期
3	中塚古墳	遺跡	国	脇袋区	瓜生	脇袋	古墳中期
4	上船塚古墳	遺跡	国	日笠区	三宅	日笠	古墳後期
5	下船塚古墳	遺跡	国	日笠区	三宅	日笠	古墳後期
6	十善の森古墳	遺跡	福井県	天徳寺区	三宅	天徳寺	古墳後期
7	丸山塚古墳	遺跡	若狭町	天徳寺区	三宅	天徳寺	古墳後期
8	藤井岡古墳	遺跡	若狭町	個人	三方	藤井	古墳中期
9	脇袋丸山塚古墳	遺跡		個人	瓜生	脇袋	古墳中期
10	糠塚古墳	遺跡		個人	瓜生	脇袋	古墳中期
11	向山1号墳	遺跡		個人	瓜生・野木	堤・下吉田	古墳中期
12	脇袋	文化的景観		脇袋区	瓜生	脇袋	

●「常神半島沿岸部の土器製塩遺跡群」保存活用区域

- ・日本海に面する常神半島沿岸部地域を中心としたエリアです。
- ・常神半島沿岸部には、古墳時代以降に大和政権へ塩を供給していた土器製塩遺跡群があります。これらの遺跡群は、古墳時代に始まり御食国が成立する律令期(奈良時代)に全盛期を迎えます。そして、一部の遺跡は平安時代まで塩を生産していたことが分かっています。
- ・御食国若狭成立のきっかけともなった塩を通して、若狭町の新たな魅力発信を図る地域とします。
- ・福井県海浜自然センター、若狭三方縄文博物館、土器製塩遺跡周辺の民宿が活用拠点施設です。
- ・「塩づくり体験事業」「『御食国若狭の塩』ブランド化事業」「土器製塩遺跡群分布調査事業」が主な事業となります。

区域内の主要文化財

No	名称	種別	指定選定者	管理者	地区	集落	時代
1	世久見遺跡	遺跡		個人	西田	世久見	奈良
2	食見遺跡	遺跡		個人	西田	食見	古墳～平安
3	遊子遺跡	遺跡		個人	西田	遊子	奈良
4	小川遺跡	遺跡		個人	西田	小川	古墳
5	神子遺跡	遺跡		個人	西田	神子	奈良～平安
6	ミヤマダニ遺跡	遺跡		個人	西田	常神	奈良
7	ニシンジャラ遺跡	遺跡		個人	西田	常神	奈良



II-3. 保存・活用にかかる措置

①保存・活用の方向

- これらの遺跡の特徴は、文化財と周辺環境の関係において、古墳とその周辺の美しい自然とともに、有形・無形の文化財を有する集落、そして背景の丘陵・山々が原風景を残していることです。そのため、古墳と自然の一体的な保存・活用の措置を講ずる必要があります。
- 北川流域に所在する脇袋・天徳寺・日笠古墳群等を一括して「上中古墳群」と総称し、総合的な古墳整備の方針を示した「御食国若狭『膳臣の里』基本構想」を策定します。この構想の端緒として、若狭地方最初の広域首長墓が築かれ、古墳の里であることも想起させる脇袋古墳群の入口部分に位置し、列島内外の地域間交流を如実に表す埋葬施設や副葬品が、唯一明らかとなっている国史跡の西塚古墳を対象とします。この西塚古墳を若狭のシンボリックな記念物として復元整備を行い、構想で取り扱う古墳の中心的な位置づけとします。
- 西塚古墳の復元整備と近年の継続的な発掘調査成果を反映させ、若狭町が有する古墳文化の列島における位置付けや対外的に担った役割を、より具体的で分かりやすくした歴史文化館の展示リニューアルを実施していきます。
- 首長墓周辺の古墳を対象として、今後の継続した発掘調査により、若狭の階層的構造や多様な交流に関する新たな知見が得られるものと考えられます

②措置の一覧

以下に、文化財保存活用区域ごとに措置を記載します。

● II-①「海を越えた若狭の王の古墳群」保存活用区域の措置

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続／新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		13年目	47年目	810年目
1	西塚古墳範囲確認調査事業	①知る	遺跡の範囲を明確にするための調査を実施する。	町費 国庫	◎	○	○		◎	新規			
2	御食国若狭「膳臣の里」基本構想策定事業	②守る	上中古墳群の総合的な整備構想を策定する。	町費	◎	○	○		◎	新規			
3	国史跡西塚古墳保存活用計画策定事業	②守る	国史跡西塚古墳(脇袋古墳群)の保存活用計画を策定する。	町費 県費 国庫	◎	○	○		◎	新規			

	事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続／新規	実施時期		
					町・行政	所有者	住民	民間	専門家		1-3年目	4-7年目	8-10年目
4	国史跡西塚古墳公有化事業	②守る	国史跡西塚古墳について整備のために公有化する。	町費 県費 国庫	◎	◎							
5	国史跡西塚古墳復元整備事業	②守る	国史跡西塚古墳の復元整備を行う。	町費 県費 国庫	◎	○	○	○	◎				
6	西塚古墳出土品レプリカ作製事業	③活かす	西塚古墳等の出土品のレプリカを作製する。	町費	◎								
7	歴史文化館常設展示充実事業	③活かす	貴重な出土品について展示替え、リニューアルによって充実させていく。	町費	◎		○	○	◎				
8	歴史文化館企画展実施事業	③活かす	町内の多様な歴史文化に関する企画展を実施する。	町費	◎		○						
9	歴史文化館解説多言語化事業	④伝える	展示パネルにQRコードを貼り付け、多言語解説のHPを閲覧できるようにする。	町費	◎			○					
10	歴史文化館音声ガイド設置事業	④伝える	常設展示の音声ガイドを整備する。	町費	◎			○					
11	歴史文化館サポーター事業	⑤担う	歴史文化館のサポーターが展示、体験講座、イベント等を実施する。	町費	○			◎					
12	脇袋古墳整備委員会活動推進事業	⑤担う	現在ある保存会などの古墳のPRや保存・活用のための勉強会、視察研修活動等を支援していく。	町費	◎			◎					
13	中小規模古墳発掘調査事業	①知る	中小規模の古墳の発掘調査を行う。	町費 国庫	◎	○	○		◎				
14	曾根田遺跡(古墳時代以降)出土品活用事業	③活かす	県所蔵の曾根田遺跡(古墳時代以降)出土品の移管を受け、展示活用していく。	町費	◎	○							

● II - ② 「常神半島沿岸部の土器製塩遺跡群」 保存活用区域の措置

事業名	類型	事業概要	財源	取組主体					継続 ／ 新規	実施時期		
				町・行政	所有者	住民	民間	専門家		1-3 年目	4-7 年目	8-10 年目
15 土器製塩遺跡群 分布調査事業	① 知る	土器製塩遺跡の分布調査を行う。	町費	◎				◎	新規			
16 塩づくり体験事業	③ 活かす	古代の土器製塩をイベント参加者が体験する。	町費	◎		◎	○		新規			
17 「御食国の塩」ブ ランド化事業	③ 活かす	若狭の海水から生成した塩をブランド化する。	町費 民間	○				◎	新規			



西塚古墳



西塚古墳発掘現地説明会

③重点措置

措置の中から、特に重要なものを重点措置として以下に詳細を記載します。

事業名	国史跡西塚古墳復元整備事業		
実施場所	Ⅱ－①「海を越えた若狭の王の古墳群」保存活用区域	措置の種類	守る／活かす／伝える
事業内容	西塚古墳は、脇袋古墳群で唯一埋葬施設や副葬品が明らかになっている古墳であり、古墳時代の対外交渉史や御食国若狭の成立を考えるうえで極めて重要な古墳です。この西塚古墳を当時の姿に復元整備することで、古代の若狭を象徴した記念物とします。そして、西塚古墳の重要性を幅広く内外に発信します。さらには、ガイダンス施設、案内看板の設置や古墳に係るイベントを実施します。西塚古墳を「憩いの場」「学びの場」とすることにより、新たな文化的観光資源とし、日本にとどまらずアジアをも視野に入れた交流を促して町を活性化させることを目的とします。		
実施主体	若狭町	実施時期	令和8年度～令和10年度
財源	国庫／県費／町費		
関連事業	国史跡西塚古墳範囲確認調査事業/国史跡西塚古墳公有地化事業/国史跡西塚古墳保存活用計画策定事業		

事業名	中小規模古墳発掘調査事業		
実施場所	Ⅱ－①「海を越えた若狭の王の古墳群」保存活用区域	措置の種類	知る
事業内容	若狭町内に分布する中小規模古墳を調査することで、広域首長墓群を頂点とした若狭地方の階層的構造形態をより明確に語ることができるようになります。また、発掘調査を行うことによって、首長墓だけでなく中小規模古墳も町の重要な文化財と位置づけ、保存や活用の必要性を周知させることを目指します。		
実施主体	若狭町	実施時期	令和8年度～
財源	国庫／町費		
関連事業			

事業名	「御食国若狭の塩」ブランド化事業		
実施場所	Ⅱ－②「常神半島沿岸部の土器製塩遺跡群」保存活用区域	措置の種類	活かす
事業内容	若狭町には、古代の若狭を治めた膳臣一族が眠る古墳が所在しています。その後、御食国の役割を担っていきますが、調としての若狭の塩は贅と同様に御食国若狭を象徴するものです。つまり、若狭町において、古墳と塩は欠かせない要素です。現在、若狭町大鳥羽で民間企業が若狭湾の海水から塩を生成しています。そこで、関連機関と協力し、若狭町独自の『御食国若狭の塩』としてブランド化を目指し、この塩を利用した料理や菓子などの商品開発を行っていきます。		
実施主体	民間企業／若狭町	実施時期	令和6年度～
財源	国庫／町費		
関連事業			